

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）（基盤研究（S））中間評価

課題番号	20H05697	研究期間	令和2（2020）年度 ～令和6（2024）年度
研究課題名	皮膚における多様な免疫応答の誘導機序と他臓器との免疫学的関連の解明	研究代表者 （所属・職） （令和4年3月現在）	梶島 健治 （京都大学・医学研究科・教授）

【令和4（2022）年度 中間評価結果】

評価		評価基準
○	A+	想定を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
	A	順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	A-	概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
	B	研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
<p>（研究の概要）</p> <p>外敵侵襲に対する皮膚免疫応答機構の解明は、アトピー性皮膚炎をはじめとする様々な炎症性皮膚疾患の病態理解に重要である。研究代表者は皮膚病変の発症に伴い皮膚内にリンパ節様の組織構造が形成されることを見だし、iSALT(inducible skin-associated lymphoid tissue)と命名している。本研究では、その役割を明らかにする研究に取り組む。また、iSALTを介する腸管の免疫寛容誘導機構の解明にも取り組む。そして、皮膚を物理的・化学的な侵襲から身体を守るための単なるバリアーとしてだけでなく、重要な免疫器官と位置付け、その役割を明らかにすることを目標としている。</p>		
<p>（意見等）</p> <p>既にヒト疾患でも iSALT が存在することを見だし、マウスの実験系を用いてその誘導機構や免疫記憶への寄与を示している。また、主にマウスの実験系を用いて、炎症性毛嚢炎、アレルギー性皮膚炎、皮膚感染の病態に、腸管と皮膚との免疫クロストークが関連することも明らかにしている。</p> <p>現状では、当初の想定を上回るペースで研究が進展しており、今後、生体イメージングや単細胞解析を駆使した更なる研究の進展が期待できる。</p>		